



弾道ミサイル落下時の行動について

弾道ミサイルは、発射からわずか10分もしないうちに到着する可能性もあります。ミサイルが日本に落下する可能性がある場合は、国からの緊急情報を瞬時に伝える「Jアラート」を活用して、防災行政無線で特別なサイレン音とともにメッセージを流すほか、緊急速報メール等により緊急情報をお知らせします。

① 速やかな避難行動

② 正確かつ迅速な情報収集



【ミサイル発射情報・避難の呼びかけ】

ミサイル発射、ミサイル発射。ミサイルが発射された模様です。建物の中、または地下に避難してください。

【ミサイル通過情報】

ミサイル通過、ミサイル通過。先ほどのミサイルは●●地方から▲▲へ通過した模様です。不審な物を発見した場合には、決して近寄らず、直ちに警察や消防などに連絡してください。

メッセージが流れたら

落ち着いて、直ちに行動してください。

屋外にいる場合

近くの建物の中か地下に避難

建物がない場合

物陰に身を隠すか、地面に伏せて頭部を守る

屋内にいる場合

窓から離れるか、窓のない部屋に移動する

近くにミサイル落下!

●屋外にいる場合：口と鼻をハンカチ等で覆い、現場から直ちに離れ、密閉性の高い屋内または風上へ避難する。

●屋内にいる場合：換気扇を止め、窓を閉め、目張りをして室内を密閉する。

問合せ／総務課危機管理対策係 TEL72-1111(内線214)

あなたは1日でお茶碗1杯分の食べものをムダにしていますか？

毎日の食事や買い物のなかで、食べきれず捨てられるもの、まだ食べられるのに廃棄されているもの、いわゆる「食品ロス」が全国的な問題になっています。もったいない食品を減らすために私たち一人ひとりができることを考えてみませんか。

食品ロスとは？

食品ロスとは、本来食べられるにも関わらず廃棄される食品のことをいいます。この食品ロスの発生量は国の推計によると平成26年度には年間で621万トンと推測されており、この量は世界全体の食料援助量(年間320万トン)の約2倍に相当します。国民1人当たりでは、お茶碗およそ1杯分の食べ物が毎日捨てられている計算になります。

食品ロスの約半分は家庭から

621万トンの食品ロスのうち、339万トンは事業系食品ロスと呼ばれるもので、例えば工場から発生する規格外品や、お店からの返品や売れ残りが該当します。残りの282万トンは家庭から発生するもので、家庭系食品ロスと呼ばれています。

賞味期限を正しく理解する

食品の期限表示は「消費期限」と「賞味期限」の2種類があります。いずれも開封していない状態で、表示されている保存方法で保存した場合の期限が表示されています。

消費期限は「食べても安全な期限」、賞味期限は「おいしく食べることができる期限」です。賞味期限は過ぎてもすぐに廃棄せずに自分で食べられるかどうかを判断することも大切です。

買い物は必要に応じて

必要な食品を、必要なときに、必要な量だけ購入しましょう。例えば、買い物に出かける前には、冷蔵庫のチェックをしてみましょう。

調理で作り過ぎない、余ったら作り替える

食べ切れなかった場合は、他の料理に作り替えるなど、献立や調理方法を工夫しましょう。

30・10運動で食品ロスを減らそう!

30・10(さんまる・いちまる)運動とは、宴会などの時に最初の30分、最後の10分は席に座り、食べ残しを減らす運動です。「もったいない」を心がけて食品ロス削減に取り組みましょう。

「カンパ〜イ!」



乾杯後30分は席を立たずに料理を楽しみましょう。注文の際は適量を注文しましょう。

「お開きの10分前ですよ〜」



お開き前の10分間は、自分の席に戻って、再度料理を楽しみましょう。

「ごちそうさまでした!」



残さず食べて、気持ちよくお開きにしましょう。

問合せ 市民生活課環境整備係 TEL72-1111(内線325・327)